

# 道後温泉本館周辺広場

愛媛県松山市  
伊予鉄道市内電車「道後温泉電停」から徒歩5分

Dougo-Onsen Plaza

資料提供：小野寺康都市設計事務所

## 車道を引き剥がし、歩行者広場の海に浮かべなす

道後温泉は、古くから四国を代表する観光地である。映画「千と千尋の神隠し」のモデルの一つとなった道後温泉本館は、長い時間の中で異なる時代の多様な建物が立ち並ぶことで形づくられた奥行きと味わいのある風景の中でも、とりわけ異彩を放っている。

その周辺で、街路の大幅な付け替えをおこない、それまでの車中心の場を人中心の場に仕立て直す取り組みが最近行われた。事業主体は松山市と愛媛県。デザインの中核を担ったのは小野寺康である。小野寺は、この仕事を「車道を引き剥がし、歩行者広場の海に浮かべなす、自由とゆとりをあたえる」と表現している。

本館前の通過車両は外周部の迂回路に締め出された。アーケードにつながる本館正面には、既存の歴史的建築物と折り合えるだけの「時間」がしみ込んだ伊予鉄道の古い敷石が地元の石工の手で敷き詰められた。

迂回路と接続する勾配部分では、街路両側に階段が設けられ、その間に緊急車両などが通過できる石畳のスロープが配置された。

民地境界部の収め方、階段その他の取り付け位置など、図面で扱いきれない細かなところは、現場で関係者が繰り返し議論する中で一つずつ詰められていった。

長く車が主役であった都市内街路を人の手に取り戻そうとする動きは、例えばオープンカフェのように全国各地に広がりつつある。そうした中で、この道後温泉での取り組みは、単に空間の利用形態の転換にとどまらず、空間の質にまで踏み込むことの大きな可能性を示している。

平成13(2001)年、公益社団法人 土木学会デザイン賞優秀賞受賞。(樋口 明彦)



整備後の道後温泉本館正面 石畳は伊予鉄道の敷石に合わせた手加工の御影石(本館正面の一部に本物の敷石が用いられている)



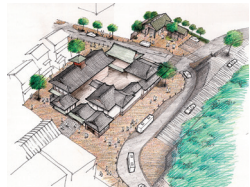
道後温泉東側接続部の階段とスロープ



整備前の本館前の状況



道後温泉周辺広場計画平面図



整備イメージのスケッチ

# 嘉瀬川・石井樋地区歴史的水辺整備事業

Restoration of Ishiibi historical water system in Kase River

佐賀県佐賀市  
JR長崎本線「佐賀駅」から車で15分

資料提供：1.2.4-9.吉村伸一流域計画室 撮影：3.逢澤正行

## 歴史的水システムの復元

佐賀県嘉瀬川の石井樋は、嘉瀬川から佐賀城下に水を引く水利施設で、佐賀鍋島の戦国武将であった成富兵庫茂安が、約400年前に築造したと伝えられている。現存する水利施設としては我が国最古級のものである。石井樋は、大井手堰、天狗の鼻、象の鼻、出鼻、石井樋(樋門)、野越、二の井手堰、兵庫アラコ、遷宮アラコなどで構成されている。大井手堰でせき上げられた水は象の鼻先端部を逆流するような形で流れ、天狗の鼻を回り込んで導水路を南下し、本土居(堤防)に設置された石井樋(樋門)をくぐって多布施川を下る。洪水は中の島の南側放水路を経て嘉瀬川本川に戻すシステムとなっている。

石井樋は350年間佐賀市中心部に水を送り続けてきたが、昭和35(1960)年に川上頭首工ができ、その役割を終えていた。水が流れなくなり約半世紀。放置された石井樋は堆積した土砂に埋まり荒れ果てていたが、平成5(1993)年、この水システムが再生されることとなった。

本事業は歴史的水システムの復元である。したがって、水システムの考察とそのシステムによって形成された空間構造を読み解く作業が基本となった。単純な取水システムであれば構造物の復元で済むが、石井樋は複数の施設で構成されており、そのメカニズムは十分に研究されていなかった。築造当時の記録はなく、築造から200年後の「疏導要書」(南部長恒著、天保5(1834)年)が最も古い文献である。水システムは限られた資料・文献、現地調査などにより仮説が立てられ水理模型実験で検証された。

石井樋の施設で最も大きく存在感のある大井手堰は、旧大井手堰の基本構造を継承し、元の位置に新設復元。構造は緩傾斜部を有する固定堰部と起伏式ゲートからなる半固定堰である。ゲートと機械設備はコンクリートの石張り構造であるが、それ以外は伝統的技法の空石積で仕上げられている。これらは石積み工法の第一人者である佐賀県立名護屋城博物館高瀬哲郎のアドバイスの下、設計・施工された。

伝統的な石積技法と現代の土木技術の融合により歴史的水システムが再構築され、世紀を超えて伝え残されてきた石井樋が甦ったのである。石井樋地区内の河畔林は全面的な保全を前提として設計され、見事なクスノキの高木が並び、エノキ、サクラが彩りを添えている。来訪者も多く、市民の憩いの場が形成されつつある。平成20(2008)年には史実を踏まえた計画・設計が評価され、公益社団法人土木学会デザイン賞優秀賞を受賞している。(宮崎 大)



1.天狗の鼻



2.石井樋地区全景



3.大井出堰



4.放水路と園路



5.昔の石井樋



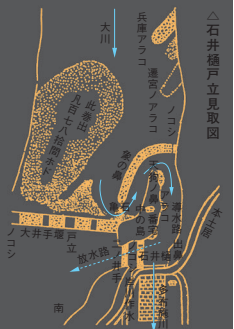
6.石井樋の工事



7.発掘調査で確認された石井樋



8.伝統的の石積技法による施工の様子



9.石井樋戸立見取図「疏導要書」に加筆